

大阪城トライアスロン 2025 TO マニュアル【スイム】

250509 版

担 当	氏 名	無 線	エイジ業務 1	エイジ業務 2	前 日
チーフ	山口 孝一	○	進行報告 DNF/TOV 管理 水温チェック	バイクピックアップ アップ	○
TO	音川 和也		整列・スタート誘導		
TO	有馬 千篤		整列・スタート誘導		○
TO	中島 あゆみ		アンクルバンド管理、スキップ管理報告		
TO	更谷 建一		アンクルバンド管理、S→T 走路		○
TO	横山 岳司		エイド・メガネ管理、S→T 走路		○
TO	村瀬 伊史		救護引き上げポイントで DNF 報告		○
TO	山本 裕文		ボート(水上監視)		
VO リーダー	〇〇〇〇				

【前日】 00:00~00:00 マリンミーティング (チーフ TO のみ)

00:00~00:00 救護引上シミュレーション (参加可能 TO・引上ポイント担当 VO4 名)

【当日】 00:00~00:00 救護引上げ最終確認 (全スイム TO・引上ポイント担当 VO 全員)

◆スイムエイド業務

- ① チーフ TO は配置された水のケース量を確認、記録する。
- ② 水を紙コップに半分入れてテーブルに置き、選手に取ってもらう。配布は VO が行う。
- ③ 紙コップ用のゴミ袋は、底に小さな穴をあけて水が抜けるようにしておく。
- ④ ペットボトルの分別は不要、キャップを外し圧縮してまとめる。
- ⑤ スイム終了後に水が余ればランエイド・フィニッシュに連絡を取り、必要なら VO に運んでもらう。
足りている場合は机の上に置いておく。チーフ TO は残ったケース量を記録して TD に提出する。

◆メガネ預かり

VO が担当する。選手自身でタグにレースナンバーを記入してメガネに付けてもらう。

◆アンクルバンド配布

- ① 各ウェーブの受付終了後に「受付管理表」を参考に、DNS (不参加) 選手のバンドを取り除く。
取り除いたバンドはまとめてビニール袋に入れ、場所を決めて保管しておく。
- ② 机の上に、レースナンバー順にバンドを並べる。
- ③ 配布時間になれば、選手にレースナンバーを告げてもらい、ナンバーと氏名に間違いがないか確認してからバンドを渡す (配布は VO が担当)
- ④ 配布時間が終了してもバンドが残っている場合、トランジションにバイクがあるかどうかを確認。
(無ければ DNS) あれば本部に連絡して、放送で選手を呼び出す。

- ⑤ 予備のアンクルバンドはリレー担当 TO（トランジション TO）に渡し、番号を本部に無線報告する。
- ⑥ 配布時間の終了後「スイム受付管理表」に必要事項を記入し、HR に渡す。

◆スイムスキップ

- ① スキップの申告受付と選手の管理は、アンクルバンド配布場所で行う。
- ② スタートホーンが鳴るまで受付可能（試泳中～試泳後も可能）。
- ※スイム参加後のスキップは認めない（DNF のためバイク競技に進めない）
- ③ ウェーブごとのスキップ選手レースナンバーを本部に無線連絡する。また「スイムスキップ管理表」に書き出し、トランジションのリレー担当 TO に渡す。
- ④ スキップ選手にスタート時間と集合場所、記録が出ないこと（SKIP）を伝える。
- ⑤ スキップ選手にはアンクルバンドは配布せず、バンド配布終了後にトランジションのリレー担当 TO にバンドを渡す。
- ⑥ バンド配布後にスキップを申告した選手については、バンドを回収してトランジションのリレー担当 TO に渡す。

※アンクルバンドを持って計測地点に近づかないように注意！

スイムスキップ バイクスタート時間（一斉）

第 1 ウェーブ 12：10 第 2 ウェーブ 13：00 第 3 ウェーブ 14：20

◆風船の配布

- ① スイム競技に不安があり、監視を強めて欲しい選手は身体に風船を付けることができる。
申告があった選手には、アンクルバンド配布場所で風船を渡す。
- ② 風船は腰や背中に選手自身で付けてもらう。

◆ウォームアップ（試泳）

- ① ウェットスーツを未着用の場合、スイム参加不可（スイムスキップで参加することは可能）
- ② 時刻を確認し、選手を試泳エリアに誘導する。
- ③ アンクルバンドを付けていない選手が、試泳エリアに入らないように注意する。
- ④ 試泳している選手に異常がないか監視する。
- ⑤ スタート 3 分前までに試泳を終えて、各ウェーブの ①グループはスタートライン、②グループは一度上陸するよう誘導する。
- ⑥ 第 2 ウェーブの試泳（12:00～12:20）が、第 1 ウェーブスイム（～12:15）と重なっているため、第 1 ウェーブ選手の競技を妨げないように誘導する。
- ⑦ スタート時刻までの残り時間を伝える。3 分前、2 分前、1 分前。1 分前以降は告知しない。
- ⑧ スタート位置より前に出ないように注意する。
- ⑨ スタート時刻になったら、フライング状態にないことを確認の上、HR がホーンを鳴らす。
- ⑩ 各ウェーブ ①グループのスタート後に②グループを入水させ、2 分後にスタートさせる。
- ※各ウェーブの①/②グループごとに、2 分間隔のフローティングスタート。関門は 2 分ずれる。

◆監視・安全管理

- ① 異常と思われる選手を発見した場合は、近くのライフセーバーに連絡して対応してもらう。
- ② スロープを上がってくる選手の状態の確認を行う。明らかに疲れている選手、体調不良が見て取れる選手には声かけを行い、必要であれば休息させる。疲労が激しい選手、具合の悪そうな選手についてはメディカルスタッフに対応を依頼する。

◆スイムアップ～トランジション

- ① スイムアップした選手をトランジションへ誘導する。
「アップしてから右へ」「トランジションエリアは左」「トランジション入口は左」など声かけ
※特にスイム待機エリア方向に逆走しないように注意する。

◆リタイア（DNF）

- ① レースナンバー体調を確認し、アンクルバンドを回収する。
- ② レースナンバーとリタイアの理由を無線で本部に無線報告する。
- ③ 該当選手を競技エリアから外に出す。

※スタート側でのリタイア者の導線

一度アンクルバンド配布場所方向へ逆行してから、一般観覧者と同じ導線で誘導する。

※スイム救護所側でのリタイア者の導線

一般観覧者と同じ導線で濠沿いに誘導する。

- ④ レース終了後、回収したアンクルバンドを本部に持っていく。
※アンクルバンドを持って計測地点に近づかないように注意！

◆タイムオーバー（TOV）

- ① スイム制限時間

（スタンダード）1 周目 25 分 2 周目 45 分 （スプリント/リレー）30 分

上記を超えた選手には、競技の継続が出来ないこと、記録は出ないこと（TOV）を伝える。

カットオフの場所は、スタンダード 1 周目はブイ、それ以外はスロープ上がってきたところ。

※カットオフの場所まで 100m 以上離れている場合、明らかに疲れている選手はスロープまで泳がせず、引き上げを依頼する。

- ② レースナンバーと体調を確認し、アンクルバンドを回収する。
- ③ レースナンバーと TOV であることを本部に無線で報告する。
- ④ 該当選手を競技エリアから外に出す（競技中の選手と交錯しないよう）。
- ⑤ レース終了後、アンクルバンドを本部に持っていく。

※リレーの場合、スイム選手がリタイアやタイムオーバーの場合でも、競技続行可能。アンクルバンドを引継げる場合は引継ぎ、無理な場合はトランジションで予備を渡し、本部に無線で報告。

※アンクルバンドを持って計測地点に近づかないように注意！

◆各状況報告

- ① 正時 1 時間ごとの水温
- ② 各ウェーブの先頭選手、最終選手のスイムアップ
- ③ DNF と TOV の情報（レースナンバーと理由）DNF や TOV で最終選手が変わる可能性もあるので、最後尾から 3 選手くらいまで把握する。最終選手が変われば必ず無線で報告する。

※以上は本部に無線報告

- ④ 各ウェーブの最終選手を確認し、トランジションまで後追いする。トランジション入口でトランジション担当 TO にスイム最終選手であることを伝える。

◆競技終了後

- ① チーフ TO の指示で周囲のコーンなどを元の位置にまとめ、掲示物を剥がし、ゴミを拾う。
- ② チーフ TO はテント内に持ち込んだ備品が揃っていることをリストで確認する（消耗品を除く）。
- ③ 忘れ物・落とし物は「選手荷物預かりテント」備品は「TO 受付テント」使用しなかった配布物は大会本部、ゴミは太陽の広場の集積場所へ持っていく。
- ④ 休憩後に各自の第 2 ポジションへ移動する。
- ⑤ 業務が終了後、報告するべき事項があればチーフ TO に伝える。終了後の全体ミーティングが開催される場合は、できるだけ参加する。